

おとさだ 乙貞

第239号 通巻41第6号
令和4（2022）年2月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター
〒524-0212 守山市服部町2250番地

TEL&Fax 077（585）4397
Mail maizobunkazai@city.moriyama.lg.jp

新年を迎えて早ひと月が経ちますが、その間に吉報が飛び込んできました。当センターに在職経験のある今村翔吾さんが先月19日に第166回直木賞を受賞したことです。

受賞作の「塞王の楯」は、まさに天下分け目の関ヶ原の合戦、その勝敗を左右した大津城の攻防を舞台にした作品です。主人公は名だたる武将ではなく、戦国時代の技能集団として名を馳せた穴太衆と、守る、攻めるという戦略面で対峙する国友鉄砲鍛冶集団です。これ以上は読まれていない方の興をそぐこととなりますので控えますが、数多い文献からの史実に基づき、その隙間に独創を込めて描かれた歴史叙述は受賞の名に恥じない作品に仕上がっています。

片や、かつて今村さんも携わっていた発掘調査はほとんど史料がない中、大地に刻まれた遺構や出土品をもとに古代社会を復元していきます。両者異なるように見えても、史実をつなぎ合わせて社会像を描く、歴史を紐解く楽しさという点で共通しています。今後もますます歴史に触れることの大切さを発信していただきたいと思います、拝読しながらそのように感じました。

それでは、昨年12月以降の発掘調査の近況と開催したセンター事業をお伝えしていきます。

発掘調査だより

焰魔堂遺跡 第35次調査

先号でもお知らせした焰魔堂遺跡第35次調査の調査成果をお伝えします。調査は12月17日に終了し、弥生時代後期の方形周溝墓SX-1と古墳時代前期頃と思われるSX-2、古墳時代前期～中期の溝5条（SD-1～3、5、6）や古墳時代後期～平安時代中期の遺物が出土する溝SD-4、古墳時代中期の土坑2基（SK-1～2）、旧河道、ピット等を検出しました。

検出遺構の概略を記したいと思います。まず、調査区1・2北端で検出したSX-1は一辺13～13.5m、周溝幅1.5～2.5mを測ります。深さは後世の削平を受けているため、周溝は約10cm台しかありませんでした。



焰魔堂遺跡第35次調査第1調査区遺構検出風景・SX-1出土土器



▲焰魔堂遺跡第35次調査地図

SX-1の出土遺物は周溝北壁付近からミニチュア土器の台付き鉢が出土しました。左の写真を掲載しています。高さは約6cmと小型品で、下膨れしたゴブレットのような形状をし、口縁部の立ち上がり境界部分に1条の沈線を施しています。

SD-1は調査区1北辺を東西方向に流れる溝で、途中でSX-1を切り込んでいます。幅約1m、深さ35cmの規模を測り、古墳時代前～中期の時期が考えられます。

SD-4もほぼ東西方向を向く溝で、調査区1、2で確認しました。溝幅は約3.4～5.4m、深さ約0.8～1.2mの規模を測ります。この溝からは古墳時代後期の須恵器壺や平安時代中葉の黒色土器碗が出土しています。溝の断面観察では地山ブロックを混入する土層が堆積していることから、急激に埋没したことがうかがえます。

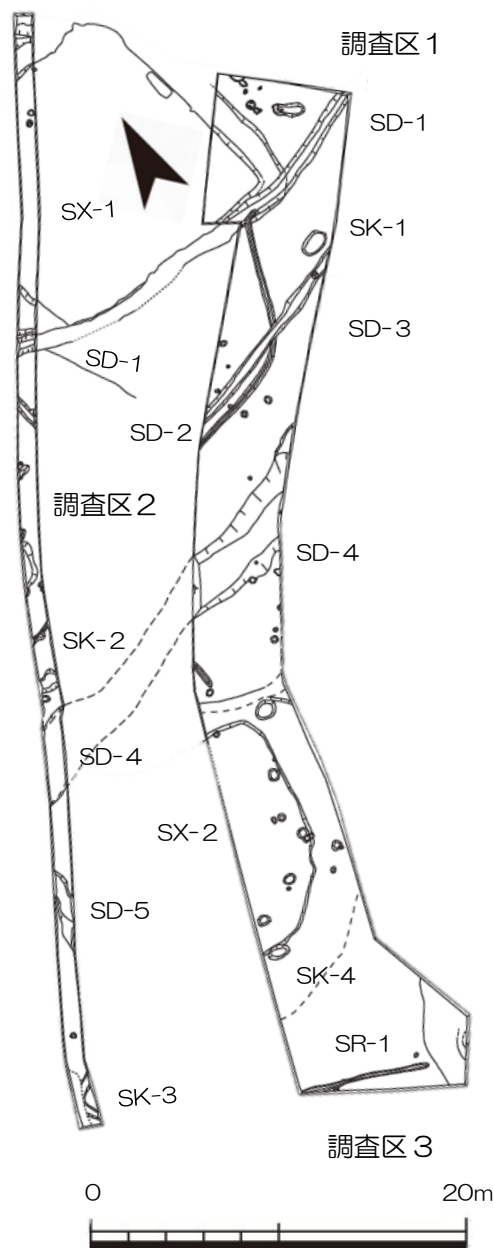
調査区3からはSX-2を検出しました。後世の旧河道SR-1が切り込んでいるため、規模などを正確には把握できませんが、一辺約12.5mを測り、時期は古墳時代初頭～前期頃の築造と推定しています。

また、SX-2を切り込むSK-4からは写真のとおり須恵器蓋坏2セットと、器内におさめられていたと考えられる石製紡錘車2点が出土しました。紡錘車とは、繊維に撚りをかけて糸を紡むための「はずみ車」です。

今回出土した2点はともに加工が容易な滑石で作られています。そのうち1点には線刻が施されています。紡錘車は実用の紡織具であるほか、副葬品として古墳からの出土例があります。今回の出土状況も須恵器に納められているという点から、何らかの祭祀に用いられたとも考えられます。

以上が、調査を終えた時点での焰魔堂遺跡第35次調査成果の概略です。今後精査していき、新たな発見があればその都度お伝えしていきます。（堀田）

焰魔堂遺跡第35次調査平面図



調査区1（南西から撮影）



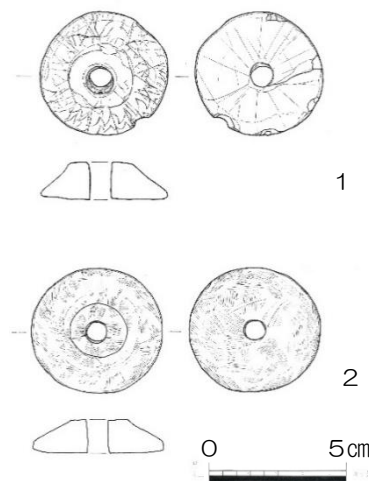
調査区3全景写真



SK-4出土須恵器蓋杯



SK-4須恵器・紡錘車出土状況写真



SK-4出土紡錘車実測図

高関遺跡 10 次(伊勢遺跡)

今回の調査は、昨年実施した9次調査(乙貞237号、238号掲載)の隣地にあたります。事前の試掘調査によって見つかった遺構が、高関遺跡と伊勢遺跡の二つの遺跡に跨っていましたが、大半が高関遺跡でしたので10次調査として報告します。

道路予定地と擁壁部分の約860㎡を調査対象として、1月11日より開始しました。現在は擁壁部分を幅45～90cm、長さ約120mにわたって調査を行っています。深さ30～90cmから、礫層、あるいは粘土層を地山として土坑や溝、ピットを検出しています。このうち溝は小型丸底壺や受口状口縁甕が出土しており、古墳時代前期の時期が考えられます。

狭い範囲のため全容が掴めていませんが、今後、道路本体の調査を行いますので、より詳しく把握できるものと思われます。(畑本)

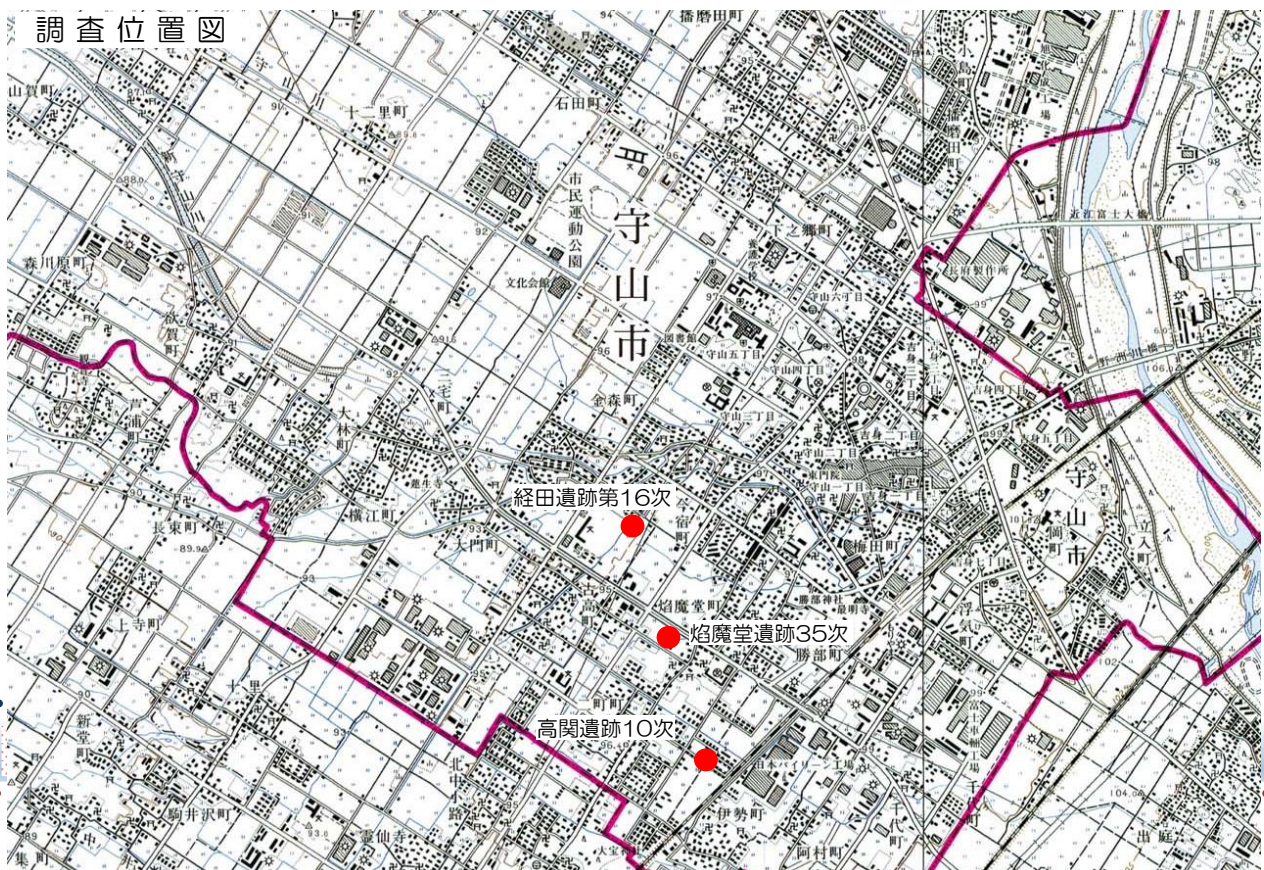


擁壁工事箇所での調査の様子

経田遺跡第16次調査

1月20日より今宿四丁目字高田地先において宅地造成に伴う発掘調査を開始しました。開発地の約2,100㎡の内、遺構の確認された道路予定地の約330㎡を調査します。

周辺地は古墳時代前期の前方後方型周溝墓や方形周溝墓が築かれていることが今までの調査でわかっています。現在、方形周溝墓や溝、土坑などを検出しているところです。(堀田)



令和3年度歴史入門講座を閉講しました

12月18日（土）、令和3年度の歴史入門講座最終講として第6講を開催しました。

講師は、公益財団法人滋賀県文化財保護協会の三宅弘さんで、「琵琶湖から唯一流れでる川のほとりの遺跡-関津遺跡と関津城-」をテーマにご自身が担当された関津遺跡と関津城遺跡の調査成果をお話しいただきました。

調査では、旧石器時代から江戸時代と幅広い時代の遺構、遺物を検出され、そのことについてわかりやすくお話ししていただきましたが、その中でも平城の都から近江国庁を結ぶ道のひとつ、田原道の調査事例はわかりやすく、大変興味がそそられました。

今回の第6講をもちまして、令和3年度歴史入門講座を閉講いたします。三宅さんには最終講に相応しい講演をしていただきました。ありがとうございました。



令和3年度歴史入門講座

講座第6講開催風景

- ① 6月19日(土)「湖東平野の河川域遺跡群Ⅰ-愛知川を中心に-」講師 東近江市埋蔵文化財センター 杉浦 隆支さん / ② 7月17日(土)「湖西最大の河川 安曇川とその流域における古墳の動向〜最近の発掘調査事例から〜」講師 高島市教育委員会 宮崎 雅充さん / ③ 8月21日(土)「湖東平野の河川域遺跡群Ⅱ-犬上川右岸福満遺跡の調査成果」講師 (公財)滋賀県文化財保護協会 中川 治美さん / ④ 9月18日(土)「姉川、高時川流域の遺跡-湖北にみる城郭-」講師 長浜市市民協働部歴史遺産課 牛谷 好伸さん / ⑤ 10月16日(土)「県下最大の流域面積を誇る野洲川周辺の遺跡-古代東海道を発見!! 栗東市高野遺跡を中心に-」講師 (公財)滋賀県文化財保護協会 福井 知樹さん / ⑥ 12月18日(土)「琵琶湖より出でる河川、瀬田川流域-関津遺跡、関津城遺跡の調査成果を中心に-」講師 (公財)滋賀県文化財保護協会 三宅 弘さん (丸数字は回数、開催日 演題 講師名の順に標記しています。)

これまでの乙貞や新着情報は、『歴史のまち守山』やFace Bookからもご覧いただけます！



←歴史のまち守山はコチラから

<http://moriyama-bunkazai.org>

守山市立埋蔵文化財センターFacebook ページはコチラから▶

<https://www.facebook.com/MaibunMoriyama/?ref=bookmarks>



【後記】今号も冒頭の後編としてしたためます。今村翔吾さんは、2018年の「童の神」、2020年の「じんかん」で惜しくも逸した直木賞を今回三度目の候補作品「塞王の楯」でその栄誉を手にされました。おめでとうございます。

受賞が決まったその時、「everything happen for the best」というフレーズを想起しました。元ラグビー日本代表の大西将太郎さんが代表選考から外され、打ちひしがれていた時、この言葉に勇気づけられたと語っています。「いいことも悪いこと、今起きているすべての出来事は後の最良のためにあるんだ。」という意味に解釈されています。この言葉を胸に刻みハードワークされたことにより、その後代表の座につかれたことは言うまでもありません。今村さんの場合も、過去2度の選外という苦い経験は今回の受賞のためにはなくてはならない必然だったのかもしれませんが。また、作品の文中に、一騎当千の戦国武将立花宗茂が国友鉄砲鍛冶の若きリーダー彦九郎を論じた下りの「今からでもよいではないか。人はそう思った時から歩み始める」、この言葉はダンスインストラクター時代の今村さんが人生に迷える教え子への、はたまた三十にして歴史作家の道を決意した今村さんご自身へのエールではと想像を巡らせています。受賞をきっかけに、読者を鼓舞するような小説を書き続けてほしいと願ってやみません。(馬耳東風)